

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 1 日現在

機関番号：3 4 3 1 5

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：2 1 5 2 0 6 9 5

研究課題名（和文）

『日本霊異記』の文献・書誌及び歴史地理的検討による古代社会像の再構築

研究課題名（英文）

Reconstruction of the Historical Images of Japanese Ancient Society based on the findings from Philological and Bibliographical researches and Historical Geography Studies on NIHON RYOIKI

研究代表者

本郷 真紹（MASATSUGU HONGOU）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：7 0 2 0 2 3 0 6

研究成果の概要（和文）：

本研究は 9 世紀初頭に成立した日本最古の仏教説話集である『日本霊異記』の全説話を検討し、その成果をふまえて、古代社会の実態と構造を新たな観点から復元・再構築することを目的とした。これまでの『日本霊異記』研究及び本書を素材とした古代社会研究についての成果をもとに、特に 文献学的・書誌学的な考証を批判的に継承した『日本霊異記』の精確な本文校訂、『日本霊異記』に登場する地名・寺院の、近年における出土文字資料研究の進展や発掘調査の成果、歴史地理学・考古学的視角によるフィールドワークをふまえた現地比定、古代仏教史をはじめとした歴史学研究の知見を活かした新たな注釈、以上の 3 つを主たる方法として『日本霊異記』全説話を対象に分析を加えた。その成果は『日本霊異記』の注釈書として近刊する予定である。

研究成果の概要（英文）：

The objective of this study is to reconstruct the true state and fabric of the ancient Japanese society from the new viewpoint obtained from reviewing all the stories from 'NIHON RYOIKI,' which is the oldest Japanese Buddhism story collection compiled in the beginning of the 9th century.

This study combines the results of earlier researches on 'NIHON RYOIKI' and the findings about the ancient society derived from the reviews of the said literature with the following three major approaches. These research methods help further analyze and interpret all the stories from 'NIHON RYOIKI'

1 Precise revision of passages from 'NIHON RYOIKI' employing critically carried on historical investigations based on philological and bibliographical standpoints.

2 Identification of locality based on the research results of the recently unearthed articles containing the inscriptions of the names of places and temples that appear in 'NIHON RYOIKI' as well as the findings of fieldworks carried out with the historical-geographical and archaeological perspectives.

3 New interpretation utilizing the knowledge of history research, such as the ancient Buddhism history.

The results of this study is scheduled to be published soon as a book of annotation to 'NIHON RYOIKI.'

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本霊異記・歴史地理学・日本古代史・仏教史・説話集

1. 研究開始当初の背景

『日本霊異記』は主として国文学の立場から研究が進められてきた。それらは『日本霊異記』の成立や作者、個別説話のテーマや背景を説話の表現や文脈・語彙の検討から明らかにするもの、中国・朝鮮の説話や『今昔物語集』をはじめとする後世の説話との比較検討などが中心的な論点であり、その研究は国文学のみならず、歴史研究にも少なからぬ影響を与えてきた。一方で歴史学界においては、『日本霊異記』に関心を払った研究成果はあまり多いとはいえない。『日本霊異記』そのものを歴史史料として検討し、いかなる意義を有する素材なのかを考究するなど、『日本霊異記』そのものに即して、史料的な有効性を明らかにし、古代社会像の構築を目指す研究はまだまだ存在しない。また歴史研究者は、『日本霊異記』を史料として利用する際、本文や内容理解を注釈書類に依拠していることが多いが、既存の注釈には歴史研究の立場から見て不十分なものが少なくない。特に地名や寺院などの現地比定は検討の余地のあるものが少なくない。内容理解においても、日本古代仏教の特質を踏まえた解釈がなされるべきである。また近年刊行された注釈書には、本文校訂や訓読において緻密な文献学的・書誌学的な考証を踏まえているとはいいがたいものが存在している。こうした状況は『日本霊異記』の歴史史料としての可能性が十分に究明されていないことを背景とすると思われる。

以上のような研究動向を踏まえ、本研究では(1)文献学的・書誌学的な考証に基づき、あらためて『日本霊異記』本文の精確な校訂を行うこと、(2)『日本霊異記』の地名・寺院名などについて、近年の出土文字資料の増加や発掘調査の成果と、歴史地理学・考古学的視角によるフィールドワークを踏まえた綿密な現地比定、(3)日本古代仏教史をはじめとした歴史学研究的知見を生かした新たな注釈作業、を主要な課題と捉え研究を進め

た。

2. 研究の目的

本研究は9世紀初頭に成立した日本最古の仏教説話集である『日本霊異記』の全説話を検討し、その成果をふまえて、古代社会の実態と構造を新たな観点から復元・再構築することを目的とした。

3. 研究の方法

これまでの『日本霊異記』研究及び本書を素材とした古代社会研究についての成果を踏まえ、特に文献学的・書誌学的な考証を批判的に継承した『日本霊異記』の精確な本文校訂、近年の出土文字資料研究の進展や発掘調査の成果、歴史地理学・考古学的視角によるフィールドワークを踏まえた現地比定、古代仏教史をはじめとした歴史学研究的知見を活かした新たな注釈作業、以上の3つを主たる方法として『日本霊異記』全説話を対象に分析を加えた。

4. 研究成果

研究期間の3年間を通じ以下のような調査・研究を行った。

『日本霊異記』上巻～中巻 27 縁までの説話と、上中下巻の序文について逐次検討を行った。研究期間中にほぼ月1回、全35回の定例研究会を立命館大学朱雀キャンパスで開催した(研究代表者・分担者2名・協力者3名が参加)。この研究会では、各縁担当者が、底本とする真福寺本の写真版及び対校本(来迎院本・国会図書館本・群書類従本)の写真版を用いて本文を校合し、古代史・仏教史・歴史地理学的な視角よりする注釈を付した報告を行い、研究会メンバーで討議を行った。この間、A4版約500枚(四六版1000ページ相当)の注釈書元原稿を蓄積している。

研究期間第2年度で注釈作業を終えた上巻については、注釈書刊行のために専門研究者の協力を得て、本文・訓読文などについて国

語学的見地からの校閲を行った。また月々の研究会でフォローできなかった注釈成果の点検作業を分担者・協力者があつまって集中的に行い、原文・訓読文・訓釈・校異・語釈などの各項目を、全面的かつ精緻に点検作業を進めた。そのためもあり、研究期間中に目標としていた注釈書の公刊はできなかった。研究期間終了後の早い時期に刊行できるよう作業を進めたい。

研究期間中に3度、『日本霊異記』説話故地の調査を行った。初年度は北陸方面（石川・富山）において調査を行った。特に『霊異記』に登場する山林寺院「三千寺」の故地とみられる金沢市の三小牛八八遺跡を訪ね、金沢市埋蔵文化財センターにて同遺跡出土の木簡・墨書土器などを観察した。また『霊異記』に見える越前国加賀郡畝田村の故地にある遺跡を訪ねた。石川県立歴史博物館では、学芸員より近年調査の進んだ当該地域の古代の仏教関連遺跡についてレクチュアを受けた。この他、発掘調査中の石川県内の山林寺院跡、石川県・富山県の古代以来の寺院・神社、遺跡などを踏査した（2009年10月12・13日）。第2年度は四国方面（愛媛・香川）において調査を行った。主な訪問先は下巻39縁と関連の深い石鎚山の成就社・奥前寺、伊予の巨大官衙遺跡として現在も調査が進む久米官衙遺跡・来住廃寺跡、また伊予讃岐両国の国分寺跡と伊予国分尼寺跡、『霊異記』にも登場する越智氏創建の白鳳寺院・法安寺跡、讃岐国府の隣接寺院と見られる開法寺跡などを訪問し、古代における当該地域の特質や環境について認識を深めることが出来た。7世紀の山城・屋島城については高松市教育委員会の山元敏裕氏に案内いただき、発掘調査担当者の立場から、遺跡の意義や現状、古代の高松市域の環境などについて話を聞くことが出来た。また愛媛大学教授・寺内浩氏、香川県校友会の村上良一氏・穴吹学氏（前高松市歴史資料館長）とも懇談の時間を持った。高松市歴史資料館、讃岐国分寺資料館、香川県埋蔵文化財センター、石手寺宝物館、屋島寺宝物館といった展示施設では、古代の仏像・経典や古代寺院遺跡からの出土遺物などを実見することができた（2010年10月1～3日）。最終年度は、和歌山県の古代寺院跡を中心に故地を踏査した。『霊異記』下巻を中心に22の説話が古代紀伊国を舞台としているためである。訪問先は佐野廃寺（伊都郡かつらぎ町・中11「桑原狭屋寺」の跡地）、丹生都比売神社（伊都郡かつらぎ町）、紀伊国分寺跡（紀の川市東国分）と隣接の歴史民俗資料館、西国分塔跡（岩出市西国分）、北山廃寺（紀の川市貴志川町・下17「弥気山室堂」の故地との説が有力）、淡嶋神社（和歌山市加太・下32に関連する地域の式内社）、紀伊風土記の丘資料館、和歌山県立博物館、道成

寺（日高川町・下33「別里」の故地にある古代寺院跡）、椒古墳（有田市・中1「椒抄奥嶋」に埋葬されたとする長屋王の墓に比定する伝承がある）。古代寺院跡では周辺の環境を確認し、遺跡の範囲、礎石などを観察した。資料館などでは出土遺物などを観察した。丹生都比売神社では高野山との関係について宮司から話を伺い、現代に続く神仏習合のあり方を間近に見ることができた。椒古墳では、案内いただいた有田市郷土資料館の西岡巖氏より、長屋王伝承の歴史と現状など興味深い話を伺うことができた（2011年11月4・5日）。以上の現地調査の結果は、『日本霊異記』の注釈作業において、本文の解釈や語釈・補注の執筆に生かされている。

この他、奈良県内でも故地調査を行った。『日本霊異記』に関わる比蘇寺跡、雷岡、元興寺、大安寺などの故地周辺地域の踏査を行い、歴史的地理的環境の把握に努めた。この他、奈良県大和郡山市では額田寺奈里並伽藍図の故地を踏査し、古代の村落や池・溝・寺院などについて知見を深め、文献に登場する地名・寺院等の現地に即した理解に役立てることができた。

本研究の中心をなした『日本霊異記』注釈作業を通して得られた古代仏教あるいは古代社会に関わる新たな知見は、研究代表者・分担者・協力者それぞれが発表した個別の研究にも生かされているほか、『日本霊異記』の注釈書で公表する予定である。またおなじ研究組織で新たに採用された「異宗教の相剋により生じた社会現象の比較的研究 古代仏教説話に見る伝統と革新」（平成24～26年度 基盤研究(C) 課題番号 24520779）において、本研究の課題を発展的に継承し、『霊異記』説話のさらなる検討を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(19件)

山本崇（単著）「東面北門周辺の出土木簡と宮内省・中務省」、奈良文化財研究所（責任編集・山本崇）『藤原宮木簡三』（奈良文化財研究所史料第88冊）、査読無、2012、22-29頁

山本崇（単著）「平安時代の即位儀とその儀仗 文安御即位調度図考」、『立命館文学』、査読有、624号、2012、103-118頁

山本崇（単著）「廃都後の平城宮 奈良時代末から平安時代初期までの平城旧宮」、奈良女子大学古代学学術研究センター編集・発行『都城制研究(6) 都城の廃絶とその後』、査読無、2012、62-75頁

山本崇（単著）「壬申の乱と飛鳥寺西の広場 小墾田兵庫をめぐる」、『明日香風』、査読無、122号、2012、8-13頁

吉岡直人（単著）「宝亀年間の対外政策と大宰府外交」、『立命館文学』、査読有、624号、

2012、41-52 頁

若杉智宏・森先一貴・山本崇(共著)「朝堂院朝廷の調査(飛鳥藤原第 163 次)」、『奈良文化財研究所紀要 2011』、査読無、2011、82-90 頁

山本崇(単著)「二〇一〇年出土の木簡 奈良・藤原宮跡」、『木簡研究』、査読有、33 号、2011、15-16 頁

濱修・山本崇(共著)「一九七七年以前出土の木簡(三三)滋賀・北大津遺跡」、『木簡研究』、査読有、33 号、2011、144-146 頁

山本崇(単著)「紹介 奥野中彦著『荘園史と荘園絵図』」、『日本史研究』、査読有、587 号、2011、75 頁

本郷真紹(単著)「『御願寺』再考」、栄原永遠男・西山良平・吉川真司編『律令国家史論集』(塙書房) 査読無、2010、519-542 頁

本郷真紹(単著)「蘇我馬子と物部守屋 仏教受容の可否をめぐる争い」、鎌田元一編『古代の人物 1・日出づる国の誕生』(清文堂) 査読無、2010、163-184 頁

山本崇(単著)「平城京の建設 条坊と条里」、『季刊考古学』、査読無、112 号、2010、23-28 頁

山本崇(単著)「一九七七年以前出土の木簡(三二)奈良・藤原宮跡」、『木簡研究』、査読無、32 号、2010、122-124 頁

山本崇(単著)「紹介 沖森卓也著『日本古代の文字と表記』」、『日本史研究』、査読有、576 号、2010、80 頁

山本崇(単著)「平城宮の宮殿」、『月刊文化財』、査読無、556 号、2010、15-19 頁

毛利憲一(単著)「八世紀中期の地方財政官稲混合についての一考察」、栄原永遠男・西山良平・吉川真司編『律令国家史論集』(塙書房) 査読無、2010、393-414 頁

吉岡直人(単著)「大宰府外交機能論」、『立命館史学』、査読有、31 号、2010、23-43 頁

山本崇(単著)「二〇〇八年出土の木簡 奈良・藤原宮跡」、『木簡研究』、査読有、31 号、2009、16-17 頁

山本崇(単著)「一九七七年以前出土の木簡(三一)奈良・大官大寺」、『木簡研究』、査読有、31 号、2009、184-185 頁

〔学会発表〕(計 6 件)

山本崇(単独)「平安時代の即位儀とその儀仗 文安御即位調度図考」、日本史研究会古代史部会、2011 年 12 月 19 日、日本史研究会(京都市)

山本崇(単独)「2011 年全国出土の木簡」、木簡学会第 33 回研究集会、2011 年 12 月 4 日、奈良文化財研究所(奈良市)

吉岡直人(単独)「令制大宰府成立史論」、日本史研究会古代史部会、2011 年 2 月 21 日、日本史研究会(京都市)

山本崇(単独)「廃都後の平城宮 奈良時

代末から平安時代初期までの平城旧宮」、都城制研究集会「都城の廃絶とその後」、2011 年 2 月 12 日、奈良女子大学(奈良市)

近藤滋・大橋信弥・山本崇(共同)「北大津遺跡の調査と木簡の再釈読」、木簡学会第 32 回研究集会、2010 年 12 月 4 日、奈良文化財研究所(奈良市)

毛利憲一(単独)「七世紀後半の地方支配組織 孝徳朝「天下立評」の実態」、日本史研究会古代史部会、2010 年 4 月 26 日、日本史研究会(京都市)

〔図書〕(計 13 件)

本郷真紹、立命館大学文学部日本史学研究学域、『日本史学を学ぶ』、2012、125 頁(担当 5-7、23-27、51-53、85-87、115-116 頁)

奈良文化財研究所(責任編集・山本崇)、奈良文化財研究所、『藤原宮木簡三』(奈良文化財研究所史料第 88 冊) 2012、図版 67 プレート・解説 252 頁

奈良文化財研究所都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)史料研究室(責任編集・山本崇)、奈良文化財研究所、「埋もれた大宮人の横顔 藤原宮東面北門周辺の木簡」リーフレット、2012、6 頁

藤田琢司、禅文化研究所、『訓読 元亨釈書』上・下(全二巻) 2012、1630 頁

山本崇、奈良文化財研究所、『平城宮発掘調査報告 17 - 第一次大極殿院地域の調査 2 (本文)』(奈良文化財研究所学報第 86 冊) 2011、360 頁(担当 101-120、253-298 頁)

毛利憲一、神戸新聞総合出版センター、坂江涉・編『神戸・阪神間の古代史』、2011、307 頁(担当 208-216 頁)

山本崇、岩波書店、木簡学会編(共著)『木簡から古代がみえる』(岩波新書新赤版 1256) 2010、232 頁(担当 193-200 頁)

山本崇(責任編集)、奈良文化財研究所飛鳥資料館、『木簡黎明 飛鳥に集う古の文字たち』(飛鳥資料館図録第 53 冊) 2010、80 頁

山本崇、奈良文化財研究所飛鳥資料館、『木簡黎明 飛鳥に集う古の文字たち』(飛鳥資料館カタログ第 23 冊) 2010、16 頁(担当 8-13 頁)

山本崇、柊風舎、奈良文化財研究所編『図説 平城京事典』、2010、596 頁(担当項目「内裏」「続日本紀」など 25 項目)

奈良文化財研究所(責任編集・山本崇)、奈良文化財研究所、『平城宮木簡七』(奈良文化財研究所史料第 85 冊) 2010、図版 175 プレート・解説 552 頁

山本崇、六一書房、伊場木簡から古代史を探る会編『伊場木簡と日本古代史』、2010、249 頁(担当「墨書土器からみた伊場遺跡群」「伊場遺跡群の主要墨書土器」の 2 項目)

山本崇、(財)浜松市文化振興財団、鈴木一

編『鳥居松遺跡第5次 伊場大溝編』、2009、
(担当 169-172頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

本郷 真紹(MASATSUGU HONGOU)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号: 7 0 2 0 2 3 0 6

(2)研究分担者

山本 崇(TAKASHI YAMAMOTO)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財

研究所・都城発掘調査部・主任研究員

研究者番号: 0 0 3 5 9 4 4 9

毛利 憲一(KENICHI MOURI)

平安女学院大学・国際観光学部・准教授

研究者番号 0 0 4 2 5 0 2 6